

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
平成28年度事業報告書

I 活動報告

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）は、三つの国際大会に日本代表チームを派遣した。各大会における成績は、メキシコ・モンテレー市で開催されたFISU（※1）主催の第2回大学世界選手権では5カ国中第3位、中国・ハルビン市で開催されたIFAF（※2）主催第4回U-19世界選手権では7カ国中第4位、アメリカ合衆国・マイアミ市で開催されたIFAF主催第8回フラッグフットボール世界選手権では男子が13カ国中第11位、女子が11カ国中第9位であった。

日本国内における競技人口は、二つの競技団体（日本プライベートフットボール協会東日本支部と九州フラッグフットボール協会）が加盟したことから、平成27年度に較べて若干の増加が認められたが、新規加盟競技団体分を除くと若干の減少傾向にある。他の多くの競技スポーツと異なりアメリカンフットボールは大学から始める選手が多いことから少子化の影響はまだ表れていないものの、小中学校においてすでに少子化が顕著になっていることから、競技人口の減少を食い止めるための対策をすべての地域・年齢において中長期的に進める方針を確認した。

※1 FISU：国際大学スポーツ連盟 Fédération Internationale du Sport Universitaire

※2 IFAF：国際アメリカンフットボール連盟 International Federation of American Football

1) 日本体育協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号及び第2号に関連する事業として、公益財団法人日本体育協会（以下「日体協」という。）が主催する公認指導者養成事業の一つとして、日本体育協会からの委託に基づいてアメリカンフットボール競技に関する指導員資格の専門科目講習会を開催した。

公認指導員資格の養成講座については、関東、関西、東北の3地区において15講座を開催し52名が受講、27名が合格した。平成28年度末の資格保有者数は306名である。また、更新時期を迎える公認指導者資格保有者のために、資格更新に必要な義務研修を計2回開催し、延べ28名が受講した。

公認指導員資格の上位となる公認コーチ資格の養成講座をスタートした。コーチ資格のカリキュラムはファンダメンタルズの指導方法を習得することを主眼に置き、USA Footballがユース向けに開発した練習ビデオを教材として取り入れた。初年度となる平成28年度は、コーチ資格講習会の講師養成を視野に入れてJAJFA指導者育成委員会から受講者を推薦してもらい、その中から受講希望者を募って12名に受講登録して貰った。平成28年度中に3名が受講完了した。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号及び第2号に関連する事業として、対象選手を三つの年齢カテゴリー

(ジュニア/U-19、カレッジ/大学生、シニア/社会人)に分け、日本代表チームのコーチを中心とするアカデミーコーチングスタッフによる一貫した指導体制で基礎技術を指導する「JAFU フットボールアカデミーキャンプ」を実施した。また、頭部傷害を少なくするために、ヘルメットではなく肩で相手に当たることを推奨する「ヘッズアップフットボール (HUF)」に特化したアカデミーキャンプも実施した。計 17 回開催し、延べ 1260 名が参加した。

- ・平成 28 年 4 月 16 (土) ~17 日 (日) : カレッジアカデミーキャンプ (関東、52 名参加)
- ・平成 28 年 4 月 23 日 (土) ~24 日 (日) : カレッジアカデミーキャンプ (関西、34 名参加)
- ・平成 28 年 5 月 7 日 (土) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (北海道学連、77 名参加)
- ・平成 28 年 5 月 14 日 (土) ~15 (日) : U-19 アカデミーキャンプ (関東、55 名参加)
- ・平成 28 年 5 月 21 日 (土) ~22 日 (日) : U-19 アカデミーキャンプ (関西、46 名参加)
- ・平成 28 年 5 月 21 日 (土) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (関西学連、135 名参加)
- ・平成 28 年 6 月 5 日 (日) : 小学生ヘッズアップ (関東小学生、44 名参加)
- ・平成 28 年 6 月 11 日 (日) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (東海学連、150 名参加)
- ・平成 28 年 7 月 10 日 (日) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (関東高校、63 名参加)
- ・平成 28 年 7 月 17 日 (日) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (北陸学連、135 名参加)
- ・平成 28 年 7 月 26 日 (火) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (関西高校、115 名参加)
- ・平成 28 年 7 月 29 日 (金) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (関西東校、72 名参加)
- ・平成 28 年 7 月 30 日 (土) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (東北学連、50 名参加)
- ・平成 29 年 3 月 5 日 (日) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (東海学連、102 名参加)
- ・平成 29 年 3 月 5 日 (日) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (関西高校、45 名参加)
- ・平成 29 年 3 月 23 日 (土) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (関西高校、20 名参加)
- ・平成 29 年 3 月 26 日 (日) : ヘッズアップアカデミーキャンプ (九州学連、65 名参加)

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加

定款第 5 条第 1 項第 1 号及び第 11 号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

平成 19 年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、平成 27 年 3 月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、平成 28 年 2 月、川崎市行政の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議 (議長：間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授)」を発足した。

平成 28 年度は、競技団体が富士通スタジアム川崎の観客席を埋め尽くす「満員試合」を増やすことを目標として観客動員の活動を促進し、スタジアム周辺での賑わいを作り出すために商店街が屋台村を設置するなど、アメリカンフットボール競技団体と地域との連携によるまちづくりを推進した。

4) 大規模災害の被災地及び被災者に対する支援に関する事業

定款第5条第1項第1号、第11号及び第12号に関連する事業として、一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会（エックスリーグ）及び東北学生アメリカンフットボール連盟と連携し、エックスリーグが東北地方で開催する東北復興支援試合を核とするアメリカンフットボールの普及活動を実施した。

10月15日、福島市信夫ヶ丘競技場にて開催されたエックスリーグ公式戦「BULLS フットボールクラブ 対 明治安田 Penta Ocean パイレーツ」に福島県伊達市掛田小学校の児童及び保護者を招待して観戦ツアーを実施した。また、小学校以下の来場者に子供用フットボールをプレゼントするとともに、試合後のふれあいタイムで福島市内の高校ラグビー選手の協力を得て来場した子供たちと一緒にフラッグフットボール体験を通じて楽しい時間を過ごしてもらった。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第70回ライスボウル」を主催した。

第70回ライスボウルは、社会人は2度目の出場の富士通、学生は11回目の出場となる関西学院大学で、2年前と同じ対戦となった。試合は、ルイジアナ工科大学出身QBコービー・キャメロンを擁する富士通が強力なパス攻撃で終始主導権を握る展開となり、富士通が雪辱に燃える関西学院大学を30対13で下し、2年ぶり2度目の日本チャンピオンとなった。

第70回大会は開始時刻を午後3時に変更し、従来ライスボウル後に行われていた女子タッチフットボール日本選手権さくらボウルを関東中学生アメリカンフットボールオールスター戦とともにプレゲームイベントしてライスボウル前に実施した。また、殿堂委員会と連携し、82年間の日本アメリカンフットボールの足跡、ライスボウルの歴史を辿ったパネルならびにライスボウルMVP杯に名を残すポール・ラッシュ博士に関するパネルを観客席通路にて展示した。

前回から導入した1階指定席が完売し、観客数は前回よりもさらに増えて33,407人となった。正月3日の恒例行事としてフットボールファンの間で定着してきたと思われる。

6) 高校生連盟・中学生連盟の主催試合に対する後援

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、日本高等学校連盟が主催する第47回クリスマスボウル（平成28年度高等学校日本選手権大会決勝戦、大阪・キンチョウスタジアムにて平成28年12月23日開催）と第6回ニューイヤーボウル（東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦：エキスポフラッシュフィールドにて平成29年1月8日開催）を後援した。

7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI (ともだち作戦) と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が主催した第6回 TOMODACHI BOWL を後援した。

- ・第6回 TOMODACHI BOWL (U-19 米軍基地代表チーム 対 U-19 関東代表チーム)

日程：平成 29 年 3 月 12 日

会場：アミノバイタルフィールド

対戦：Team USA (U-19 米軍基地代表チーム)

Team Rising Sun (U-19 関東代表チーム)

結果：Team USA 14 - 27 Team Rising Sun

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、3つの国際試合に日本代表チームを派遣した。

- ・第2回大学世界選手権 (FISU 主催)

日程：平成 28 年 6 月 1 日～6 月 11 日

会場：メキシコ合衆国モンテレイ市、モンテレイ工科大学スタジアム

結果：銅メダル (5 チーム中 3 位)

最終順位：メキシコ、アメリカ、日本、中国、グアテマラ

- ・第4回 U-19 世界選手権 (IFAF 主催)

日程：平成 28 年 6 月 29 日～7 月 10 日

会場：中華人民共和国ハルビン市、ハルビン商業大学スタジアム

結果：4 位 (7 チーム中 4 位)

最終順位：カナダ、アメリカ、メキシコ、日本、オーストリア、オーストラリア、中国

- ・第8回フレッジフットボール世界選手権 (IFAF 主催)

日程：平成 28 年 9 月 8 日～9 月 11 日

会場：アメリカ合衆国マイアミ市

結果：男子 11 位 (13 チーム中 11 位)、女子 9 位 (11 チーム中 9 位)

最終順位 (男子) アメリカ、デンマーク、メキシコ、オーストリア、カナダ、パナマ、
イタリア、イスラエル、英国、ニュージーランド、日本、グアテマラ、
韓国

(女子) パナマ、オーストリア、メキシコ、カナダ、アメリカ、ブラジル、
イスラエル、フランス、日本、デンマーク、グアテマラ

また、国際競技力の向上を目的として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム (タレント発掘・一貫指導) の助成を得て、7 月及び 12 月のトライアウトで選抜した 18 歳以下の日本選抜チーム選手 40 人を、USA Football が主催する強化育成キャンプ及びインターナショナルボウル 2017 に派遣した。

- ・インターナショナルボウル 2017 (USA Football 主催)

日程：平成 29 年 1 月 11 日～1 月 18 日

強化キャンプ（平成 29 年 1 月 11 日～1 月 15 日）

試合（平成 29 年 1 月 16 日）

試合会場：アメリカ合衆国テキサス州アーリントン市 AT&T スタジアム

試合結果：U-17 US Select Team 44 対 7 U-18 Japan Select Team

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第 5 条第 1 項第 4 号および第 8 号に関連する事業として、日本審判協会と連携して以下の国際試合に審判員を派遣した。

- ・第 4 回 U-19 世界選手権（IFAF 主催）

日程：平成 28 年 6 月 27 日～7 月 11 日

会場：中華人民共和国ハルビン市ハルビン商業大学スタジアム

派遣審判員：4 名

- ・第 1 回ニューイヤーボウル in China

日程：平成 29 年 2 月 9 日～2 月 11 日

会場：中華人民共和国深セン市、深センスタジアム

派遣審判員：4 名

1 0) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、アメリカンフットボール競技の平成 2 8 年度公式規則の平成 2 7 年度公式規則からの変更について加盟団体に周知するとともに、平成 29 年 3 月 18 日に開催した競技規則委員会において、平成 2 9 年度公式規則の平成 2 8 年度公式規則からの変更点について協議した。

1 1) 医科学研究会

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、平成 29 年 2 月 19 日、医科学研究会を開催した。アメリカンフットボールに密接に関連する医科学分野の医師、トレーナー、指導者が一堂に会して、当該年度に発生した重大事故、医科学分野における新たな知見等の情報を持ち寄って、選手の安全確保のための情報共有、意見交換を行った。また、加盟競技統括団体の所属チームに外傷報告書を提出してもらい、安全対策委員会においてデータを集計し、得られた知見については医科学研究会で報告した。参加者は、学生 38 名、社会人 101 名、講師等 16 名、関係者 18 名、計 173 名。

1 2) ドーピング検査

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、三大ボウルゲーム（甲子園ボウル、ジャパン

エックスボウル、ライスボウル)においてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構(JADA)に委託して行った。検査の結果はすべて陰性であった。

1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、以下の日程でアンチ・ドーピング講習会を開催した。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの主旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請(TUE)、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓蒙活動の一環として講習会を開催した。

・アンチ・ドーピング講習会(関西開催)

- (1) 日時 平成28年10月23日(土) 19:00~20:30
- (2) 場所 兵庫県神戸市灘区王子町2-1 関西学生アメリカンフットボール連盟会議室(神戸王子スタジアム内)
- (3) 対象者 第70回日本選手権出場対象チームメディカルスタッフ
- (4) 出席者 12チーム 21名

・アンチ・ドーピング講習会(関東開催)

- (1) 日時 平成28年10月26日(水) 19:00~20:30
- (2) 場所 東京都品川区東大井 大井町きゅりあん会議室
- (3) 対象者 第70回日本選手権出場対象チームメディカルスタッフ
- (4) 出席者 14チーム 23名

1 4) 受講者推薦(日本体育協会公認スポーツドクター、スポーツデンティスト及びアスレティックトレーナー養成講座)

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本体育協会が主催するスポーツドクター養成講座及びスポーツデンティスト、アスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。推薦に当たっては、安全対策委員会が、受講希望者の中から日本体育協会の受講者選考基準をもとに合格するものを選考した。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けているが、平成28年度においては実現に結びつくような成果は得られなかった。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、全米大学体育協会(NCAA: National

Collegiate Athletic Association) の公式規則変更、公式規則適用の状況を正確にかつ迅速に把握するために、米国 CFO (College Football Officiating LLC) が主催するフットボール・コーディネーター・ミーティング (平成 29 年 1 月 22 日-24 日開催) に、競技規則委員長を派遣した。

1 7) WEB サイトによる情報発信

定款第 5 条第 1 項第 9 号に関連する事業として、Jafa 専用の WEB サイトを活用して、国際試合における日本代表チームの活動、Jafa が主催する日本選手権ライスボウルの出場チーム紹介及び試合結果、Jafa の各委員会の活動に関する情報を発信した。

1 8) 殿堂顕彰

定款第 5 条第 1 項第 10 号に関連する事業として、平成 28 年 9 月 24 日、公益財団法人キープ協会のポール・ラッシュ記念館内に設置した日本アメリカンフットボールの殿堂において、平成 27 年度の殿堂顕彰者 11 名について掲額式を執り行った。また、継続検討課題となっていた競技者表彰に関しては、戦前の競技者に関する調査を優先して行ったうえで戦後の競技者表彰候補者の選考作業に着手することとした。

公益財団法人キープ協会のポール・ラッシュ記念館内に蓄積された未整理資料の整理作業を開始し、その一部を第 70 回ライスボウルで展示した。

10 月 14~16 日、公益財団法人キープ協会が主催する八ヶ岳カンティーフエアに参加してフラッグフットボール、チアリーディング等の体験イベントを実施した。

1 9) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第 5 条第 1 項第 11 号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、公益財団法人日本体育協会 (JASA)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構、一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL) など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

(1) 国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

平成 28 年 9 月 17 日、IFAF 総会がアメリカ合衆国ニューアーク市で開催され、Richard MacLean (カナダ) が会長に、金氏眞 (日本: Jafa 専務理事) が上席副会長に、Scott Hallenbeck (アメリカ) が副会長に、Marie Solhaug 女史 (ノルウェー) がトレジャラー (財務部長) に、Chris Josey がセクレタリーに選任された。また、トミー・バイキング元会長を支援するドイツ、アイルランド、フランス、クウェート等のグループがパリにて独自の IFAF 総会を開催するなどますます顕著となっている IFAF 分裂問題に終止符を打つため、国際スポーツ裁判所 (CAS) に

IFAF 会長の正当性を争って提訴することを決議し、各国が CAS 費用に充当するために資金を提供することとなった。アメリカ、カナダ、日本は IFAF のリーダーとして他国よりも多くの資金を提供することを合意し、また NFL からの支援も取り付けた。Jafa はアメリカ、カナダ、メキシコ、オーストラリア、オーストラリアなどの主要国と協調して IFAF の正常化に向けて努力中である。

(2) 公益財団法人日本体育協会 (JASA)

日本体育協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

スポーツドクター、アスレティックトレーナーならびにスポーツデンティストの養成講座の受講生候補者を公募のうえ選任して推薦した。

日本体育協会、JOC を初めとして多くのスポーツ団体が入居している岸記念体育会館が老朽化していることから、日本体育協会と JOC が新国立競技場に隣接する神宮外苑地区に新会館を建設することとなり、日本体育協会の加盟団体である本法人にも入居募集の案内が届いた。新会館に入居することによって、日本体育協会、JOC を初めとして多くのスポーツ団体とより密接な情報交換・連携ができるようになることが今後の本法人の活動に有益と判断し、新会館入居に応募したところ、現在と同等のスペースを確保できることとなった。新会館の竣工ならびに入居は 2019 年 7 月以降の予定である。

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

JOC 総務委員会に浅田会長が、選手強化本部会には金氏専務理事がそれぞれ委員として出席した。JOC が主催する数多くのプロジェクトならびに会合には、業務執行理事が中心となって対応した。また、JOC からのアンケート調査に協力し回答した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)

JSC の助成金事業に応募し、基金助成事業として第 4 回 U-19 世界選手権大会に日本代表チームを派遣、くじ助成事業としてドーピング検査事業ならびに Jafa フットボールアカデミー事業（スポーツ教室スポーツ大会開催事業）を実施した。

また、今年度から「将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成」の中の「タレント発掘・一貫指導育成事業」として、USA Football が主催して平成 29 年 1 月にテキサス州ダラス市で開催された高校生以下の年齢別強化合宿とインターナショナルボウルに高校生 40 人を派遣する事業を実施した。JSC からのアンケート調査に協力し回答した。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

三大ボウルゲーム（甲子園ボウル、ジャパンエクスボウル、ライスボウル）でのドーピング検査を、日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て実施した。

(6) 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)

JSAA から、JSAA による仲裁の自動応諾条項採択を依頼されており、自動応諾条項採択に向けた準備として、日本代表チーム編成規程を決議した。また、JSAA が主催するセミナーなど、JSAA の活動に参加協力した。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

エックスリーグ (社会人アメリカンフットボール協会) が加盟する日本トップリーグ連携機構の評議員会に浅田会長が、理事会に金氏専務理事がそれぞれ評議員ならびに常務理事として参加し、JTL メンバーのエックスリーグとともに NF (統括団体) の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力参加した。

以上

II 内部統制体制に関する決議

平成 28 年度は、内部統制体制について以下の決議を行った。

平成 28 年度第 1 回理事会（平成 28 年 5 月 22 日）

- 1) 管理運営基金取扱規程

平成 28 年度第 3 回理事会（平成 28 年 11 月 12 日）

- 2) 日本代表チーム編成規程
- 3) 加盟団体に関する規程（改訂）

平成 28 年度第 5 回理事会（平成 29 年 3 月 26 日）

- 4) 印章管理規程
- 5) 理事等の職務権限規程
- 6) 日本代表チーム編成規程（改訂）

以上

附属明細書

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。